

「九条の会さかど」ニュース 14年7月24日 第51号

http://www.9jo.jp/sakado sakado@9jo.jp 連絡先 283-4723 (FAX 兼用) 栗原

戦争を語り継ぐ会、ご参加を！

戦争末期、坂戸市本町2丁目に風船爆弾の気球原紙を製造していた「三和紙業坂戸工場」がありましたが、戦時中は軍事機密であり、戦後は戦犯追及を怖れて関係者は沈黙し、坂戸の中心街にあったにも関わらず詳細は不明でした。

戦後69年となる今年8月の「戦争を語り継ぐ会」で、工場長の息子さんの鈴木弘さんが、風船爆弾工場の詳細と自身の勤労働員の体験を、市民に初めて語ってくれます。

また、2008年8月の戦争を語り継ぐ会で溝端町の猪瀬秀夫さんが語った『大空襲の5日後に』が平和紙芝居となって上演されます。どうぞご参加ください。

「9条」生きるか死ぬか 九条の会10周年記念講演会より

伊豆の山 川瀬渉 眞

発足から10周年を迎える「9条の会」は、6月10日渋谷公会堂で記念講演会を開きました。発足当初の呼びかけ人も、小田実、加藤周一、井上ひさし各氏が他界しました。

大江健三郎氏は、九条の生死をかける正念場に対し、文学のペンを折ってこれに集中し、全国7,500グループの九条の会の仲間と一緒に立ち向かっていくことを力強く誓っていました。

今回の講演会で特に印象に残った発言を、私なりにまとめてみました。

それをつぶすほかない 奥平康弘氏(憲法学者)

「日本を再び強い国にする」という安倍首相は、九条改正をすぐには無理と知ると、次に3分の2以上の壁を崩す96条先行改正を考えました。これが裏目に出て国民に憲法学習を促す結果になり、立憲主

義への理解が広まりました。

その次に出てきたのが「集団的自衛権」です。これは普通に戦争ができる国になるということで、憲法9条はあってもなくても同じで、法規範として何の意味もないものになるということです。正規の改正手続きによるのではなく、解釈改憲という裏口入学のような暴挙を考えているのです。(阪田雅裕元内閣法制局長官)

これをつぶすほかない。これをつぶしたら少しは日本の道筋が見えてくるだろう。

これをつぶすことが、今求められている緊急の課題であると思います。

戦争はイヤだ 澤地久枝氏(作家)

配布されている資料に、鶴見俊輔さんのメッセージがあります。非常に短いものですが、奥様によれば鶴見さんは脳梗塞で言葉を失ってしまったため、一言ひとこと言葉を発して、鶴見さんがいいというサインを出すことを繰り返しながらこのメッセージをまとめてくださったということです。

「今、動けないのが、残念です。戦争への動きをとめなくてはなりません。九条の会に思いを託します。鶴見俊輔」

2007年に亡くなった小田実さんがいつも言っていたことは、「人間は小さな人間と大きな人間がいる。大きな人間が大きなことをやる、政治を動かすとか、戦争をするとか。しかし、実際にそれをやるのは小さな人間だ。小さな人間がイヤだと言ったら大きな人間は何もできない。

だから小さな人間よ、がんばれ」ということです。私たちは小さな人間ですが、私たちがいまの政治に絶望してあきらめてしまったら、政治はやりたい放題になります。

私は、日本は小さな国になりたいと思っています。

7月、8月、平和を心に刻む
2014年ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展
7月26日(土)~27日(日) 坂戸市文化施設オルモ2階
原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会(282-0495 池辺)

戦争を語り継ぐ 子や孫の時代へ
8月10日(日)13時30分~16時30分 坂戸駅前集会施設
勤労働員と風船爆弾工場の思い出(本町の鈴木弘さん)
平和紙芝居『大空襲の5日後に』九条の会さかど(283-4723 栗原)

2014年 坂戸市平和のための戦争展
8月26日(火)~27日(水)9時~17時 坂戸市役所ロビー
坂戸平和のための戦争展実行委員会(282-1336 塘永)

武器輸出三原則も非核三原則もなしにして、核兵器のノウハウも輸出するし、武器をつくり、武器を買おうという政治のもとにあります。それは結局経済界の人たちの欲望のお先走りをしているからです。

今こそ、私たちは憲法を守る人間、国でありたい。武力は捨てました、武力を使って解決しようとは思いませんということを言うべき時です。いくら武力があっても武力をつかって解決することはありません。国境線がどこかということ武力で解決すれば、それはまた武力によってむし返されてもっとひどいことになるのは、先の戦争がつぶさに教えてくれています。

集団的自衛権がどうのこうのといいますが、そんな言葉は憲法のどこにあるのでしょうか。安倍内閣がやろうとしていることは、アメリカがどこかの国に武力で干渉して戦争をはじめるときに、一緒になって戦争をする国に日本を変えようということです。

今日こんなに、にぎにぎしく集まったのは、二度と戦争はしない決意を固めあうためです。私たちの理想とするものをこの国の宝物として掲げていきましょう。

クロをシロと真逆の結論

7月1日閣議決定！集団的自衛権容認

集団的自衛権を容認する根拠とした基本的な論理とかいうのを見て、これはビックリです。

それは72年10月14日の参議院決算委員会に対する政府見解だそうですが、その結論は「いわゆる集団的自衛権の行使は、憲法上許されないと云わざるを得ない」となっていて、全く逆ではありませんか。

その後の81年5月29日の政府答弁書も、「憲法9条の下において許容されている自衛権の行使は、我が国を防衛する必要最小限度の範囲にとどまるべきものでありと解しており、集団的自衛権を行使することは、その範囲を超えるものであって、憲法上許されないと考えている」となっており、海外での武力行使に歯止めをかけるために、歴代自民党政権と野党とが一緒になって守ってきた尊い歴史を持つものです。

五輪招致委員会で「アンダー・コントロール」と白々しく言い放った厚顔無恥が思い出されます。

クロをシロと言い張るのも、ここまですればその稚拙さとインテリジェンスの無さに、こちらが赤くなりそうです。

さあ私たちのたたかいも、今から山場を迎えます。力をたくわえましょう！

資料館見学の感想から(1)

◆ 恥ずかしいことですが、初めて平和資料館に行ってきました。気になりながらも勤めていたので、自主的に来なかったことは反省点です。

日本全体が戦争一色になった様子がわかりました。とにかく怖いと思いました。教育も子どもの発達など全く考えていない、恐怖の教育。沢山の証言が収

録されていて、2分くらいの短いものを聞きました。生の声なので良かったですが、ひとつだけしか聞けませんでした。平和資料館は大切なものですが、もう少し身近な場所にもこのような資料館があったら良いのだらうと思いました。

風船爆弾を見られなかったのは残念(気づきませんでした)。もっと資料とか渡されると思いましたが、少なかったのは意外でした。(小野沢紀美子)

◆ 米軍の沖縄上陸が日本軍はわかっていたと思う。なぜもっと早く降伏できなかつたのかと悔しくてなりません。現在も変わらず国民の尊い命を考えていない日本に私たちは声を上げて9条を守りたいと思います。(高橋明子)

◆ 自宅からいけるこんな施設があることを今まで知らなかったのもっとまわりの人々に教えて、もっと多くの人々が利用すれば良いと思った。今、九条が危ないと思っています。(白鳥 昌)

◆ 平和資料館見学、初めてでした。戦時中の加害の歴史がなく、新しい年表になっており残念です。(藤原宏子)

◆ 今日で2回目です。展示してある資料で戦争時のことがわかり勉強になりました。子供たちにも見せたいと思う。(仁藤幸雄)



(戦時中の校舎)

◆ リニューアルしたのは良いが、余りにもさっぱりしすぎて、納得いかない場面が多い。アメリカの人形物語で良かった。懐かしい物品もあるのは良かった。いま正に憲法を守る大切な時ですが、もっと説明をしても良かったのではないかと。(浅井時子)

◆ 平和資料館のギャラリーはスッキリ空き空きのようであったか、新しい企画展示とか、市民団体などへのスペース貸し出しとか、何か工夫ができるのではないかと。講堂での映画会など、もっと色々企画すれば市民に喜ばれると思われる。

◆ 今、9条は、そのまま守り通せるのかという状況にあります。これをやってしまったら、憲法を誕生させてから今まで守り続けて来た私たちはやりきれない思いになります。

平和資料館は、革新の畑知事の時に構想されたものであり、そのまま良かったのに、リニューアルして名前も変えたのは残念です。この資料館に、九条の会も入れるくらいにしたいです。(新井竹子)

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

8月28日(木)10時~12時、9月25日(木)10時~12時
北坂戸出張所内「坂戸市民活動交流フロア」会議室
(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)